

志筑

現在のデータ

千代田地区の旧3カ村の1つ。現在の志筑地区で、住所大字は上・中・下志筑を使用。

筑波山麓の集落を指した言葉

かすみがうら市北部に「志筑」があります。「志筑」が、最初に記録に登場するのは、『常陸国風土記』です。風土記の茨城郡の条には、信筑川（現在の恋瀬川）とみられ、この地名が奈良時代まで遡ることが分かります。以降、平安時代の万葉集などの歌集に「しづくの山」「粟の森」「師付の田井」などという名が記されています。

そして、鎌倉時代以降は「志筑」という表記に整えられたようで、石岡市に残る税所文書によると建武5年（1338）には志筑氏という地名を冠した武将が登場してきます。その末裔と考えられる戦国武将に志筑左近なる人物がいます。志筑左近は、永禄12年（1569）に手這坂（旧八郷町青柳）の合戦をはじめ、小田氏治の家臣として活躍しました。



市指定文化財の
「師付の田井」

では、この地がなぜ「しづく」と呼ばれるようになったのでしょうか。『新編常陸国誌』には、「滴も粟も借字にて、下附の意なり。筑波嶺より見下ろせば、裾野の人家とも下附ばかりにみゆるによりて…」とあり、筑波山麓の集落を指しているものが、後世に志筑を限定して呼ぶようになったと記されています。志筑地区は、確かに古代において人口密度が高いところであり、大きな村落を形成していたようです。そんな志筑も江戸時代には、「志筑は常陸国の名所なり」と呼ばれていました。現在も志筑は、歴史の深さを感じさせるところです。

文芸ひろば

俳句

展望台涼しき風の集まれり
秋立つや牛久大佛目のあたり
凌霄花母の日傘のごと咲けり
山車通る稲田の辻や巡査立つ
夕風をとらへ白萩葉裏見せ
大空の風速に乗り帰燕せる
蟬時雨空を動かす大櫓
熊蟬の声の激しき湖畔荘

短歌

生涯の学習として趣味生かす高齢などと焦せるな心
娘は庭に茄子キュウリをと畝二列パソコン打つ手に土を楽しむ
つゆの晴間を老鷺一声高らかに祭の遠音をからめて届く
真ん丸な答付けたる夏椿ふんわり開く朝の光に
刈り込みし庭木の中の沈丁花花咲ける枝残されてをり
誘ひうけ嬉しき半杖引く身行きて逢ひたし迷ひに迷ふ
孫三人おんぶにだつこと暮し来て近頃吾れはばあでしかなし
残り咲く南瓜の花へさかしまに蜂は蜜すうあらんかぎりの
ストラディヴァリスもさこそと思う唐棕櫚を風が奏でる秋への序曲

橋本とし（栗田）
的場登志子（上土田）
目黒しず子（稲吉東）
大西 周（稲吉東）
鈴木春雄（戸崎）
佐藤千代（穴倉）
名倉靚子（下大堤）
前 嶋 武（上土田）
菅谷 啄子（柏崎）

北中学校

生徒も教師も

『チームでワーク』

を合言葉に

「豊かな人間性と社会に生きる力を育てる」という教育目標のもと、「生徒・教師が互いに学び高めあう教育活動を展開する」という組織目標を掲げ、「チームでワーク」を合い言葉に、日々実践しています。

今年は、創立 50 周年を迎え、12 月 6 日には記念式典を行う予定です。先輩方が築いてくださった伝統を改めて感じ、PTAの皆さんにご協力いただきながら進めています。

学びあいから

確かな学力の向上を！



「学びあい」の様子

「二人だけが分かるのではなく、みんなが分かることが大切」

全ての授業の中で、「仲間と共に学びあう力」を付けることで学力向上をめざしています。また、朝の自主学習の時間には、校長をはじめ担任外の先生方が各クラスで生徒と共に自習問題を解いています。

人とかかわりから
豊かな心の育成を！

「人とかかわりのはじめの一步はあいさつです。」と生徒会や各委員会を中心に、「毎朝のあいさつ運動」を実施しています。正門前

保育園児とともに



「全校クリーン作戦」の様子

「早寝・早起き・朝ご飯」
健康・安全や体力の向上を！

栄養教諭や養護教諭との T T（ティームティーチング）で P T A での授業や家庭教育学級などで保護者の方々にも参加をいただきながら授業を行なっています。また、スクールガードの方や交通安全指導隊の皆さんなどのご協力をいただき「交通安全教室」を実施しています。143 人の全校生徒が部活動に入り活動しています。市内大会団体では 4 つの優勝、2 つの準優勝、個人戦を含めると全ての部活動が県南大会出場という輝かしい成績を残しています。

どうぞ

北中へおいでください！

お近くへお越しの際には、どうぞ北中学校へお立ち寄りいただき授業を見学してください。胸を張って堂々と意見を述べる姿、両ひざをついて黙々と雑巾がけする姿、額に汗して必死にボールを追っている姿など、生徒たちの素敵な姿が見られることでしょう。

これも地域の方々がさりげなく見守ってくださっているたまものであると感謝しております。